

平成 24 年度施策マネジメントシート1(平成23年度実績の評価)

作成日 平成 24 年 8 月 21 日

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
			施策統括課長	小川 浩
	施策名	28 生涯スポーツの振興	関係課	長寿障がい福祉課,健康推進課,教育総務課,学校教育課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	市民	A	人口	人	実績	実績	42,428	41,917	41,159		
見込								41,159	41,032	40,650	40,323
実績											
見込											
目的	②意図(どのような状態にするのか)		成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	生涯を通じて、スポーツや運動を楽しむ。	A	週1回以上(1回30分以上)スポーツや運動をしている市民の割合	%	実績	39.5	37.5	35.5			
目標						(50)	42.0	43.0	44.0	45.0	
実績											
目標											
成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)			生涯にわたってスポーツや運動を楽しむ状態とは、週1回(30分以上)スポーツや運動をする状態状態だと考えた。								
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)			市民アンケート調査で把握「あなたは、週1回以上(1回30分以上)、スポーツや運動をしていますか?」または、「あなたは、定期的に運動やスポーツなど、身体を動かしていますか?」・野球などのスポーツもあるが、ウォーキングなども対象・頻度の程度の把握をして、その変化をみる。(例:まったくしていない/年に数回/月1回程度/月2回程度/週1回/週2~3回/ほぼ毎日)(参考:鳥根県のアンケート選択肢:年1~2日/3カ月に1~2日/月に1~3日/週1~2日/週3日以上)・1回あたりの時間を聞く。(例:10分程度/30分程度/1時間以上)								
目標設定とその根拠(基本計画策定時)			A)週1回30分以上スポーツや運動をしている市民の割合 成り行き値は、これまでの傾向から同程度で推移すると予測する。目標値は、身体教育医学研究所の活動の拡充などにより、現状から5ポイント程度上昇させることとする。								

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① スポーツや運動をする機会の提供	市民	スポーツや運動の機会を確保する。	週1回以上(1回30分以上)スポーツや運動をしている市民の割合	%	実績	39.5	37.5	35.5			
② スポーツ環境の充実	市民	気軽に親しめるスポーツ環境を提供する。	雲南市のスポーツ環境が整っていると感じる市民の割合	%	実績	41.6	38.3	34.2			
③ スポーツの仲間づくり	市民	仲間を作って活動する。	体育施設利用者数	人	実績	154,189	166,555	222,337			
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
① 役割分担	●スポーツや運動を楽しむ。	●スポーツや運動の機会の提供・普及促進に努める。
② 状況変化	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○高齢化が進み、平均自立期間も長く、元気な高齢者は増加している。加えて住民の健康への関心は高まり、スポーツの目的が健康維持に移行していることから、生涯スポーツが重要視されてきている。 ○人口減少等により、特に競技スポーツの団体では、構成員の減少による団体継続への影響が危惧されている。	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○スポーツ施設の利用促進の観点から、使用料の軽減を求められている。 ○利用者から、体育施設・運動機器の修繕、更新を求められている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○週1回以上スポーツや運動をしている市民の割合は、県平均30.9%(県政世論調査)に対し高い。これは、市内全地区に施設(学校開放を含む)が配置され、それを有効に活用していることや、市内に多数のスポーツ団体があり、住民の意識が高いことが理由に挙げられる。特に高齢者で健康づくりに関係して、運動の意識が高いことが要因と考えられる。

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《28 生涯スポーツの振興》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○週1回以上スポーツや運動をしている市民の割合は、若干の減少傾向にある。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○働き盛りの40・50代のスポーツや運動をしている割合が低く、そのため全体的に目標値より低い結果となった。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① スポーツや運動をする機会の提供	・スポーツ少年団や体育指導委員等の活動を支援し、スポーツの振興を図った。・身体教育医学研究所うんなんの地域運動指導員による各地域でのきめ細かな運動指導も、体を動かすきっかけづくりに効果があったと思われる。・宝くじ助成事業を受け、市内6運動施設で積極的に運動指導を行った。
② スポーツ環境の充実	・全国大会の出場補助金を交付し、競技スポーツの振興を図った。(義務教育以外) ・社会教育CNが健康体力づくり事業を実施し、学校・地域においてスポーツの啓発・推進に努めた。
③ スポーツの仲間づくり	・H23年度に三刀屋スポーツクラブが設立され、様々な事業展開が図られた。これにより、H23年度には、大東、加茂地区と合せ、市内で3つのスポーツクラブが活動している。 ・体育協会等の活動を支援し、スポーツの振興を図った。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○働き盛り世代の日常的な運動が不足している。 ○体育施設、設備が老朽化している。 ○スポーツ団体の活動が活性化していく必要がある。	○世代にあった運動メニューや機会の提供を図っていく。 ○体育施設・設備を適正に維持管理していく。 ○スポーツ団体を育成し、活動を引き続き支援していく。
基本事業	① スポーツや運動をする機会の提供	○働き盛り世代の運動する機会を提供する。 ○身体教育医学研究所うんなんと地域運動指導員が連携し、働き盛り世代への運動機会の提供に努めていく。 ○スポーツ推進委員(H23年度までは体育指導委員)により生涯スポーツを振興していく。
	② スポーツ環境の充実	○体育施設・設備の老朽化が進んでいる。 ○体育施設・設備を適正に維持管理していく。
	③ スポーツの仲間づくり	○少子化や高齢化により、スポーツ団体の継続が困難になってきている。 ○総合型地域スポーツクラブの事務局体制を確立していく。 ○総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、各種スポーツ団体の活動を育成、支援していく。
	④	
	⑤	